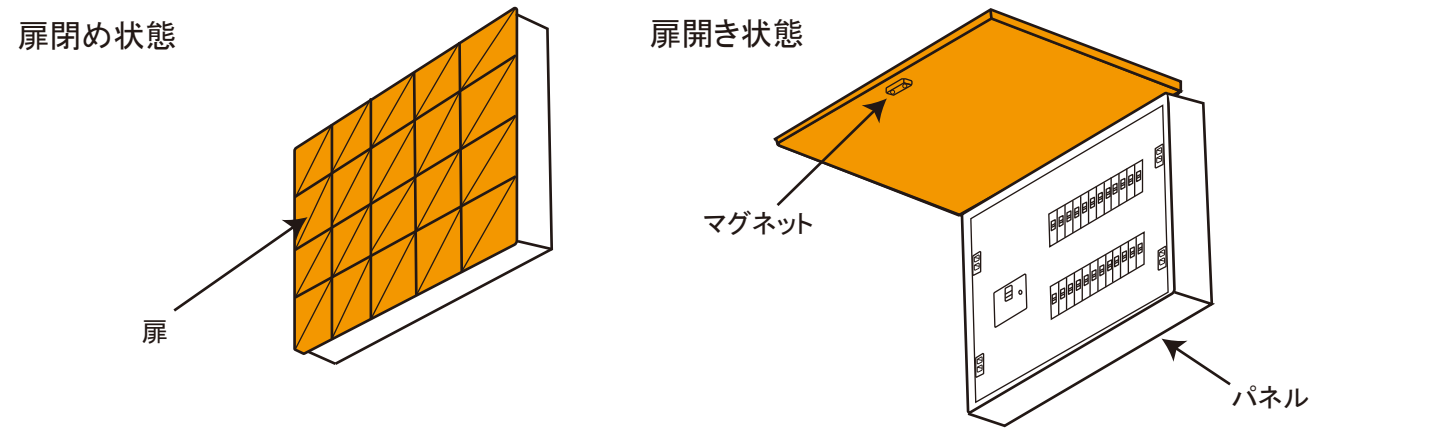
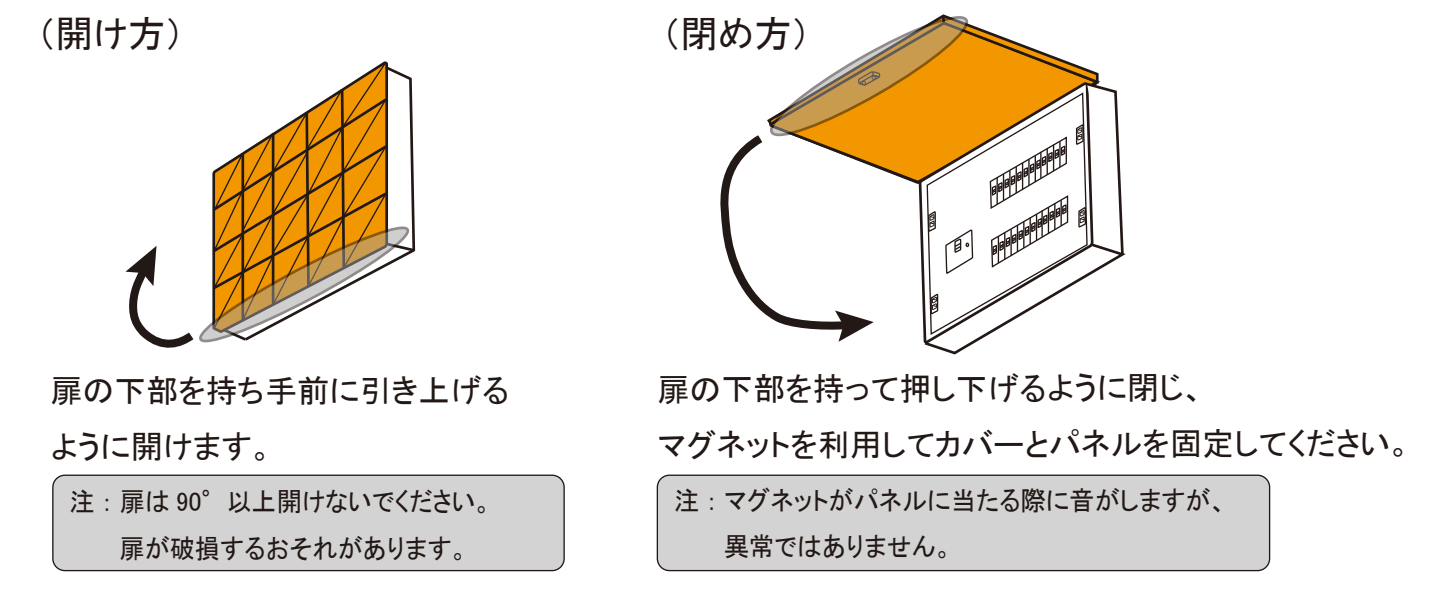


# ご入居者様へ

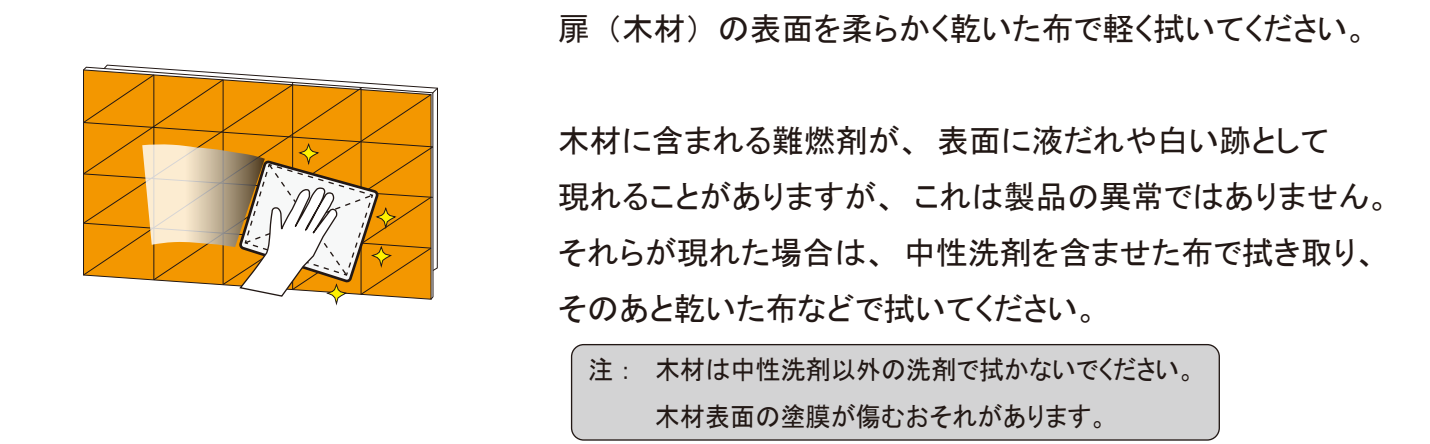
## ■各部の名前



## ■扉の開け方・閉め方



## ■お手入れ方法



# テンパール 木製分電盤 パールテクト m o k u

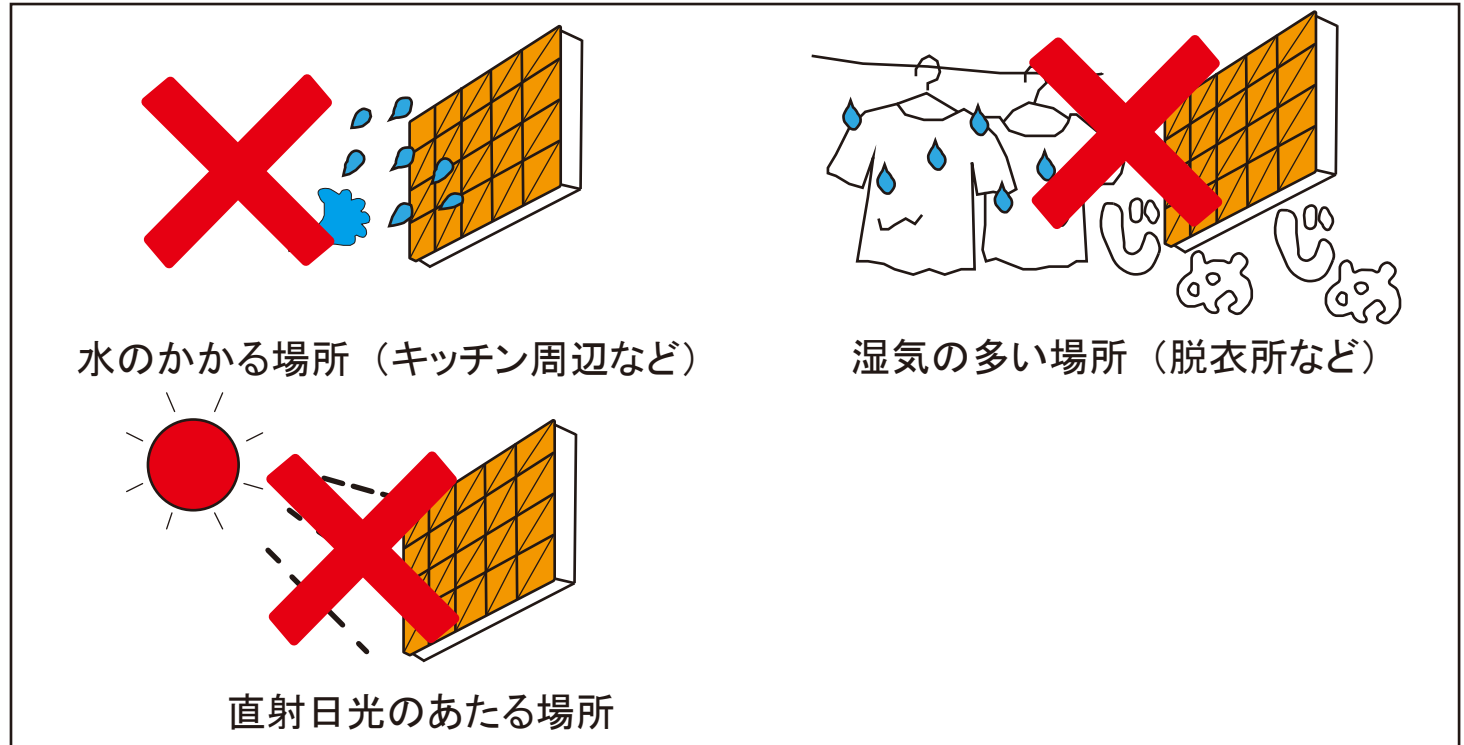
## 施工説明書

- このたびは、本製品をお買い上げいただきまことにありがとうございます。
- 施工の際は、本施工説明書をよくお読みの上、正しく施工してください。  
また、本分電盤に同梱の『住宅用分電盤 施工説明書』も必ずお読みください。
- 有資格者以外の方の電気工事は、法律で禁止されていますので絶対に行わないでください。

※本説明書中の図には、代表器種を使用しています。製品により扉のデザイン・形状が異なる場合がありますが、取扱方法や施工方法は製品共通となっております。

本製品の扉には  
木材を使用しています。  
設置場所には十分ご注意ください。

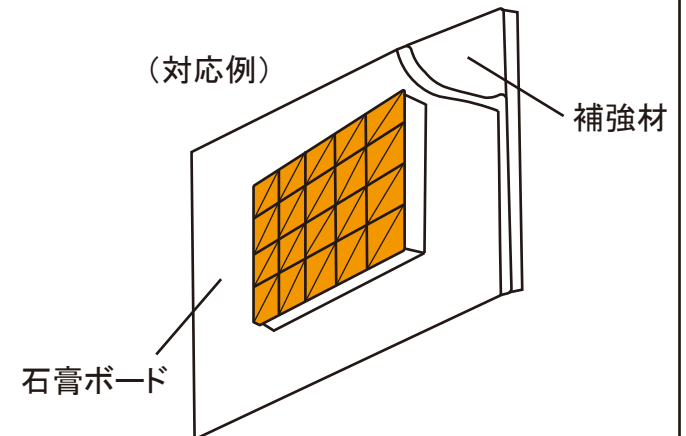
## ■設置禁止場所



## ■設置の際の注意点

取り付ける壁面によって壁側の耐荷重が異なります。  
設置する壁面の材質によっては補強材を入れるなどの対応を行ってください。

（分電盤の重量は本書 5 ページを参照してください）



テンパール工業株式会社

<https://www.tempearl.co.jp/>

■本店 〒732-0802 広島市南区大州3-1-42

【技術問い合わせ窓口】 TEL (082) 287-9110 FAX (082) 283-4534

【受付時間】 9:00～12:00 13:00～17:00（弊社営業日）

## 安全上のご注意

施工・操作・点検の前に必ずこの説明書とその他の付属書類をよくお読みの上、正しく施工してください。  
機器の知識、安全の情報そして注意事項のすべてについて熟知してから施工してください。  
この説明書では、安全注意事項のランクを「警告」「注意」として区分してあります。



### 警告

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を招く可能性が想定される場合。



### 注意

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、傷害または軽傷を招くあるいは招く可能性が想定される場合。

なお、**注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。



### 警告

- 施工・操作・点検は、上位ブレーカを切「○」にし、電気がきていないことを確認してから行ってください。感電・短絡のおそれがあります。
- 配線は正しく行ってください。誤配線は感電、火災のおそれがあります。



### 注意

- 分岐ブレーカのパールテクトブレーカは、弊社製住宅用分電盤パールテクト専用品です。弊社製の他の分電盤、他社製分電盤には取り付けできません。無理に取り付けた場合、火災のおそれがあります。
- 分岐ブレーカは分電盤に確実に取り付け、ロックレバーを下ろしてください。正しく取り付いていない場合、火災のおそれがあります。
- 分岐ブレーカの負荷側に電線を接続する場合、オレンジ色の接続完了表示が出るまで電線を差し込んでください。差し込みが不十分な場合、火災のおそれがあります。

## ■施工上のご注意



### 注意

- 電気工事は、有資格者(電気工事士)が行ってください。
- 本製品は重量物であるため、設置する壁面に適した補強材が必要です。
- ゴミ・コンクリート粉・鉄粉等の異物および雨水等が分電盤、ブレーカ内部に入らないように施工してください。感電・火災・不動作のおそれがあります。
- 配線作業は上位ブレーカを切「○」にし、電気がきていないことを確認してから行ってください。感電のおそれがあります。
- 端子のL相とN相を正しく接続してください。(AC100V回路専用器種の場合)
- 導電部の接続ねじは、増し締めを行ってください。
- 連続負荷を有する分岐回路の場合、ブレーカに通電する負荷電流は定格電流の80%以下としてください(内線規程)
- 圧着端子・圧着工具はJISマーク品を使用してください。

## ■使用上のご注意



### 注意

- 電気機器のアース端子は必ず接地してください。
- 線間の絶縁抵抗測定は行わないでください。
- 漏電ブレーカのテストボタンを押して動作確認を行ってください。漏電ブレーカが切「○」にならない場合は故障です。電気工事店へ連絡してください。
- 絶縁抵抗測定はブレーカを切「○」にして行ってください。
- 絶縁抵抗測定は過電圧検出リード線を取り外して行ってください。取り付けた状態では正しく測定できません。
- 絶縁抵抗測定は充電部一大地間のみとしてください。

## ■設置上のご注意

- 次の場所には設置しないでください。  
木材の経年変化が早まったり、湿気を含むことで難燃剤の液だれや白い跡が現れる原因となるおそれがあります。
  - ・水のかかる場所（キッチン周辺など）
  - ・湿気の多い場所（脱衣所など）
  - ・直射日光のあたる場所

## 取扱説明書

- ご使用の際は、本取扱説明書をよくお読みの上、正しくご使用ください。
- 本分電盤に同梱の『住宅用分電盤 取扱説明書』も必ずお読みください。

## ■木目・色調について

- 扉部分の木材は自然素材のため木目・色調が大きく異なることがあります。木目・色調をお選びすることや、それらを理由とした交換はお受けできません。

## ■安全上のご注意



### 警告

- 専門知識を有していない人は、絶対にパネルを取り外さないでください。感電のおそれがあります。
- 異常（発熱・臭い・煙など）がありましたら直ちに各ブレーカを切「○」にして、電気工事店へご連絡ください。火災のおそれがあります。
- 有資格者以外の電気工事は、法律で禁止されていますので絶対に行わないでください。
- 安全にご使用いただくため、定期点検を電気工事店へ依頼されることをお奨めします。

## ■保守・点検上のご注意



### 注意

- 扉の蝶番のねじ緩みを1年に一回程度点検し、緩んでいたら締め直してください。脱落のおそれがあります。
- 内部機器の保守・点検は、専門知識を有する人が行ってください。
- 内部機器の保守・点検は、上位ブレーカを切「○」にし、電気がきていないことを確認してから行ってください。感電、短絡のおそれがあります。

## ■使用上のご注意



### 注意

- 電気機器のアース端子は必ず接地してください。
- 自動的に遮断した場合は、原因を取り除いてからハンドルを入「Ⅰ」にしてください。感電、火災のおそれがあります。
- 漏電ブレーカのテストボタンを押して動作確認を行ってください。漏電ブレーカが切「○」にならない場合は故障です。電気工事店へ連絡してください。
- 分電盤の前面には、ものを置かないでください。
- ブレーカを日常のスイッチとして使用しないでください。
- 扉などの可動部には手を挟まないように注意してください。

## ■お手入れ方法

- 日常のお手入れは砂ボコリなどが付いていない、柔らかく乾いた布で軽く拭いてください。角は塗装が剥がれやすいので、こすりすぎないようにご注意ください。
- 化学ぞうきんなどを直接触れたままにしないでください。また、ベンジン・シンナーや磨き粉などは絶対に使用しないでください。
- 木材は中性洗剤以外の洗剤で拭かないでください。木材表面の塗膜が痛むおそれがあります。

## ■製品に関する注意事項

- 気候や温度の変化による木材の伸縮が発生する場合があります。
- 木材に含まれる難燃剤が、表面に液だれや白い跡として現れることがありますが、これは製品の異常ではありません。それらが現れた場合は、中性洗剤を含ませた布で拭き取り、そのあと乾いた布などで拭いてください。
- 経年や取付、保管環境により、以下のような症状が発生する場合があります。
  - ・塗膜などの外観部分の劣化やキズなど。
  - ・部品の消耗、摩耗。木材部分のササクレ、ヒビ割れ、変色。またはネジの緩み。
  - ・木材部分の反り、ヒビ割れ、色あせ、樹液のにじみ出しなど。
  - ・自然現象や環境に起因する、結露などによる凍結や、サビ、カビ。
- 木材部分に液体が付着した場合は、すぐに拭き取ってください。
- 粘着テープなどを木材部分に貼らないでください。変色や、表面の塗膜が剥がれる原因になります。



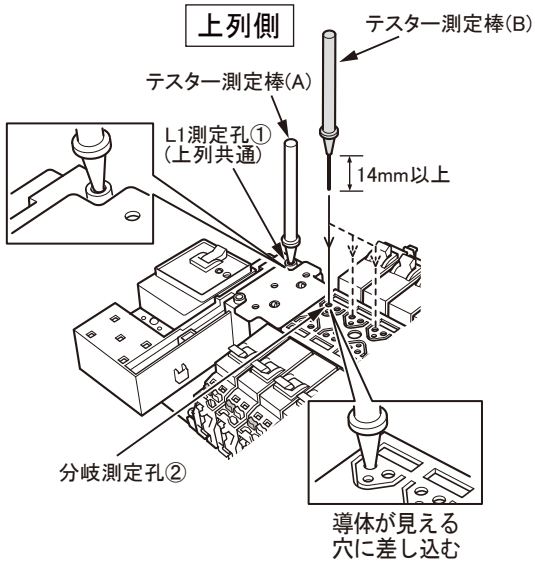
[3] 電圧測定

■分岐ブレーカ 1 次側の電圧測定方法

負荷機器に電圧を供給する前に各分岐回路の電圧を測定することができます。

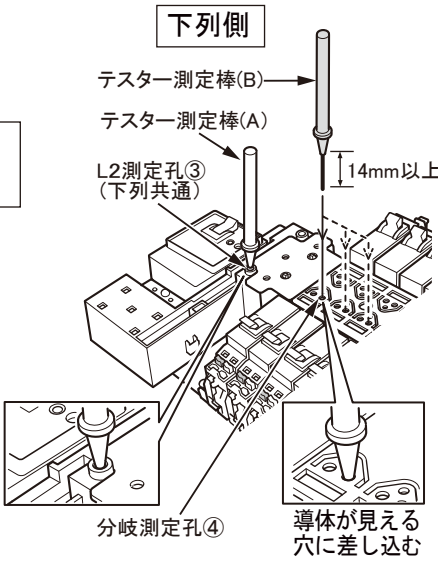
●分岐ブレーカ上列側の電圧を測定する場合

- (1) テスターの測定棒 (A) を L1 測定孔①に差し込みます。
- (2) テスターの測定棒 (B) を分岐測定孔②の導体が見える穴に差し込み、各分岐回路の電圧値を読み取ります。



●分岐ブレーカ下列側の電圧を測定する場合

- (1) テスターの測定棒 (A) を L2 測定孔③に差し込みます。
- (2) テスターの測定棒 (B) を分岐測定孔④の導体が見える穴に差し込み、各分岐回路の電圧値を読み取ります。



**注意** テスターは先端部が 14mm 以上のものを使用してください。

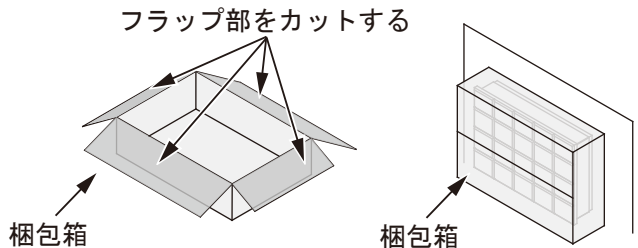
**注意**



- 必ず分岐ブレーカを切ってください。
- 分岐ブレーカは正しく取り付けてください。正しく取り付けしていない場合、短絡のおそれがあります。

[4] 施工後の埃避け

- 扉部品の梱包箱は、施工後の分電盤の簡易カバーとしてご利用いただけます。天面側のフラップ部4箇所をカットして、分電盤にかぶせてください。



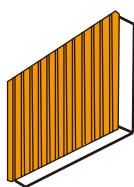
各器種の外形寸法・参考重量

品名	総回路数	本体外形寸法 [mm] (タテ×ヨコ×フカサ)	参考重量※ [kg]
Chocolate	12	330×376×103	6.9
	24	330×478×103	8.6
	36	330×580×103	10.7
Sazanami	12	332×374×121	6.6
	24	332×474×121	8.7
	36	332×578×121	10.7
Horizontal	12	320×401×103	7.3
	24	320×503×103	9.2
	36	320×605×103	11.2

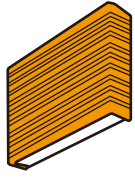
※ 分電盤の仕様や組込機器により重量が異なる場合があります。



Chocolate



Sazanami



Horizontal

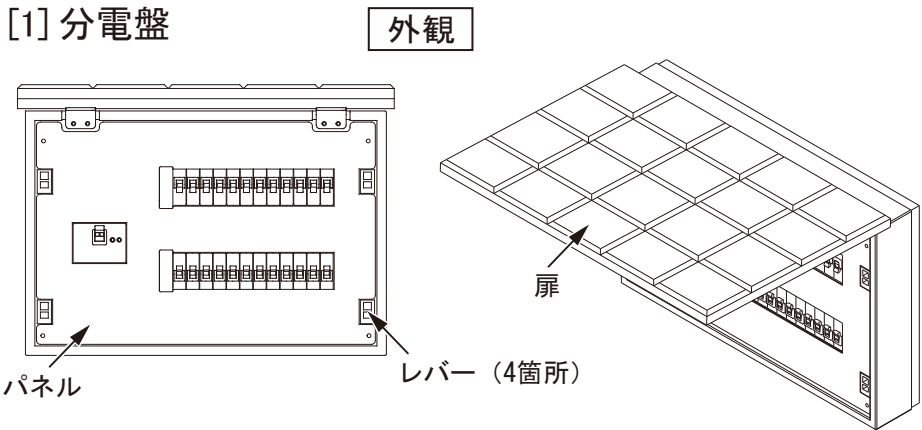
■施工電気工事業者様へのお願い

- 施工完了後、施工電気工事業者名欄にご記入ください。
- この説明書は必ずお客様にお渡しください。

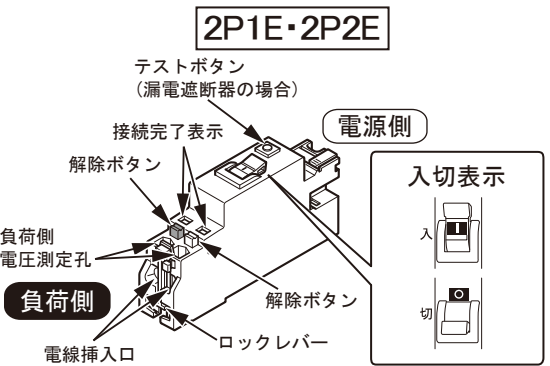
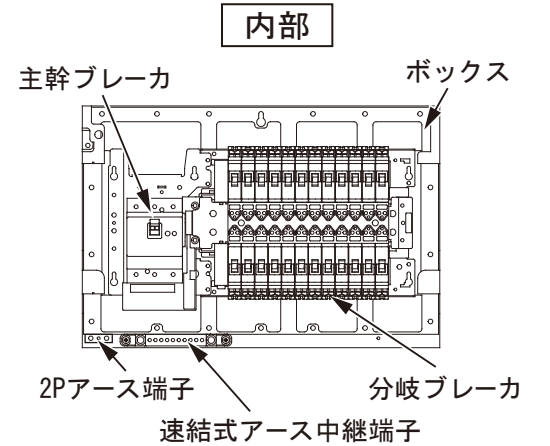
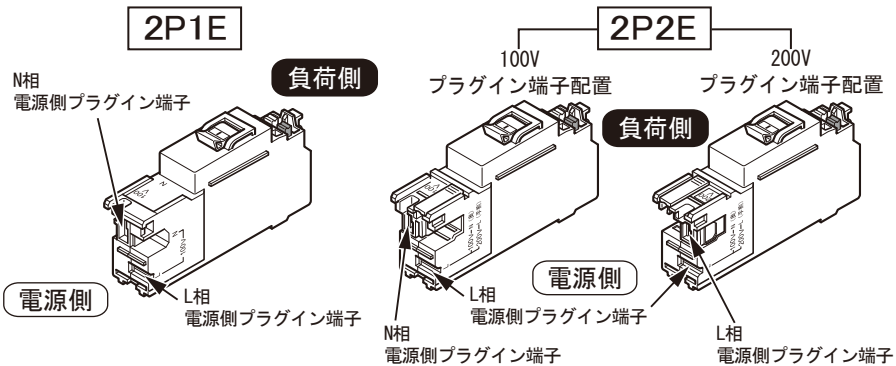
施工電気工事業者名	
TEL (   ) -	施工年月日   年   月   日

1 各部の名称

[1] 分電盤



[2] 分岐ブレーカ



2 木製分電盤の取り付け

[1] 取付位置について

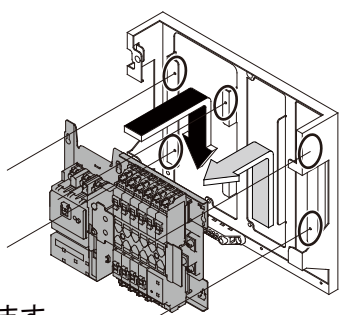
- (1) パネルの取外し・取り付けのスペースを確保するため天井と本体上部の間隔が50mm以上になるように取り付けてください。
- (2) 照明器具(ダウンライト)の近くに取り付ける場合は、使用されるダウンライトの近接限度距離以上離してください。過熱による変形・焼け・火災の原因となるおそれがあります。 ※扉を開けた状態でも確認してください。

[2] ボックスの取り付けについて

- (1) ボックス底面の配線孔に合わせて壁に穴を開けます。
- (2) 付属のねじでボックス底面の固定用穴を利用してボックスを固定します。 ※ 必ずボックスの四隅を固定してください。

- 内器ユニット □ ボックス ○ ねじ
- ▼ 取り付け方向 ⇨ 取外し方向

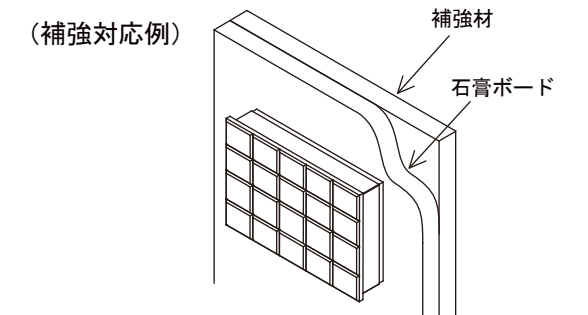
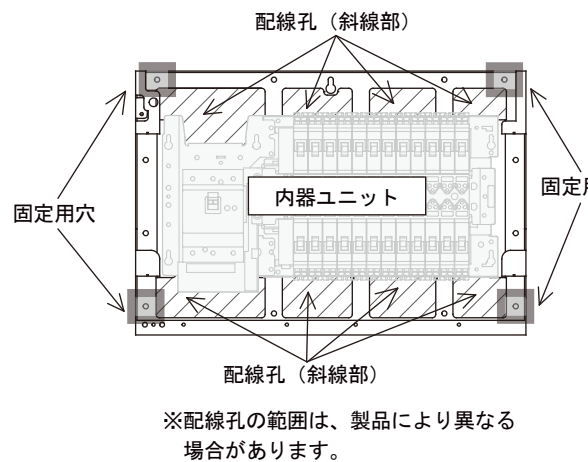
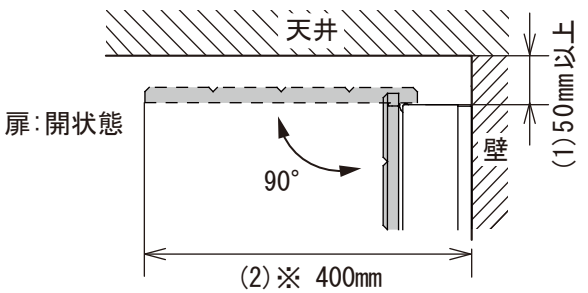
※ボックスから内器ユニットを取り外す場合は、5箇所(のねじ)を緩めて上側へスライドさせてください。取り付けは、逆手順で作業してください。5箇所(のねじ)は、緩めすぎないでください。脱落のおそれがあります。



**注意**

- 扉は 90° 以上開けないでください。扉が破損するおそれがあります。
- 取り付けの壁面によって壁側の耐荷重が異なります。設置する壁面の材質によっては補強材を入れるなどの対応を行ってください。(重量は本書 5 ページを参照してください)

- 水のかかる場所(キッチン周辺など)、湿気が多い場所(脱衣所など)、直射日光のあたる場所を避けて取付位置を選定してください。





# 3 パネルの取り外し・取り付け

- 取り外し

(1) 左右のレバー（4カ所）を、下側へカチッと音がするまでスライドさせロックを解除します。

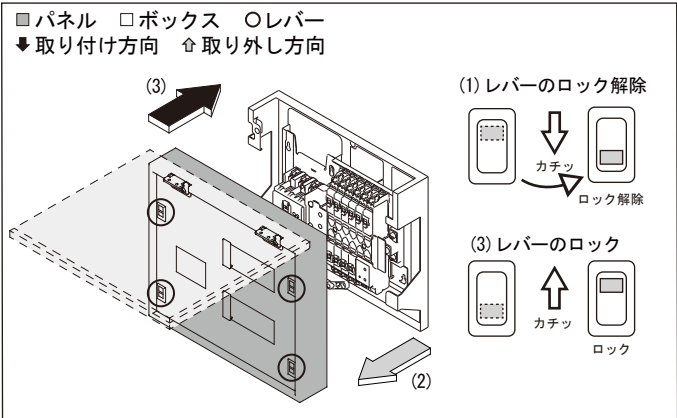
(2) パネルを手前に取り外します。

※取り外しが難しい場合は、左右のレバーをもう一度下げて、ボックスから手前に取り外してください。

- 取り付け

(3) パネル内側をボックスの外枠に合わせて、ボックス側に押し込みます。

パネルは、レバーのロックが掛かる（カチッと音がする）まで押し込んでください。



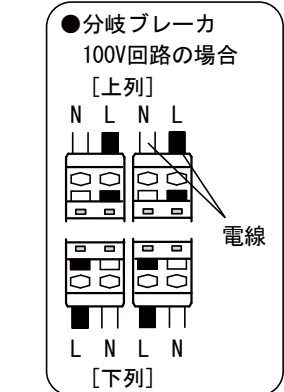
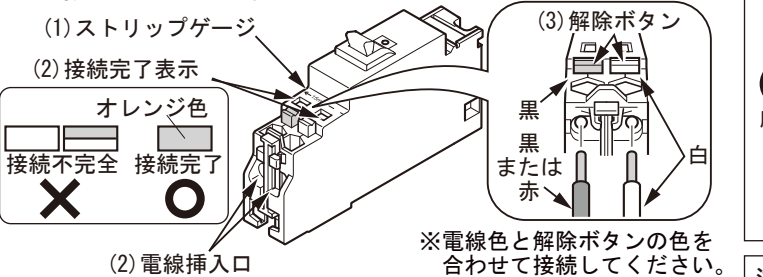
⚠️ 注意

⚠️ 厳守

- レバーを操作する際は、パネルの落下にご注意ください。
- 有資格者以外が、パネルを取り外す作業はしないでください。
- パネルを取り付けた際には、必ずロックを行いレバーがロック位置にあることを確認してください。

# 4 分岐ブレーカ（速結端子）への電線接続

- 電線の被覆をブレーカ本体のストリップゲージに合わせ、15mm（13～18mm）剥離します。
- 電線挿入口に電線を差し込み、オレンジ色の接続完了表示が出るまで差し込みます。オレンジ色の接続完了表示が出ない場合は、接続が不十分です。電線の剥離長さを確認して接続し直してください。
- 電線を抜く場合は、解除ボタンを押しながら引き抜いてください。



20A 推奨電線：φ2.0 Cu（銅）単線  
 接続可能電線：φ1.6・φ2.0・φ2.6 Cu（銅）単線専用  
 注）30Aはφ2.6の単線を接続してください。  
 より線の場合は指定の棒圧着端子を接続してください。

より線サイズ	適合棒圧着端子
1. 25mm <sup>2</sup> 2. 0 mm <sup>2</sup>	TC 2-20（棒圧着端子） VC 1-2（絶縁キャップ） 【ニチフ製】
3. 5 mm <sup>2</sup> 5. 5 mm <sup>2</sup>	TC 5.5-21ST（棒圧着端子） VC 5.5-21（絶縁キャップ） 【ニチフ製】

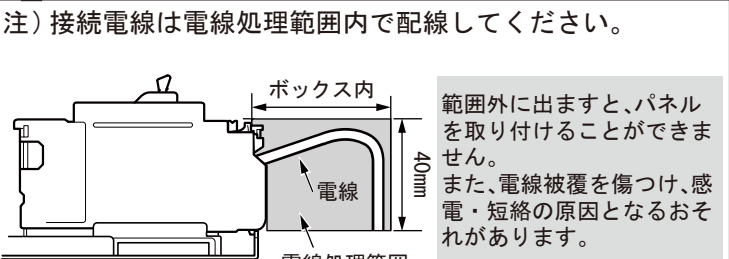
⚠️ 注意

⚠️ 禁止

- 電線の押し込み荷重が高すぎる（100N以上）とブレーカが破損する場合があります。
- 解除ボタンの押し込み荷重が高すぎる（70N以上）とブレーカが破損する場合があります。

⚠️ 厳守

- 電線の差し込み部の変形・腐食は、接続不良により、発熱・発火の原因となります。電線の変形・腐食部分を取り除いた後、電線の被覆を剥離し、接続し直してください。
- 1つの速結端子に2本以上の電線を差し込まないでください。
- 棒圧着端子を使用する場合は、必ず絶縁キャップを取り付けてください。短絡のおそれがあります。
- 心線をはんだ付けしないでください。
- 適合圧着工具を使用して電線を圧着してください。



棒圧着端子接続方法

(1) 電線の被覆を 6mm 剥離します。

(2) 棒圧着端子に電線を通し、圧着します。

(3) 棒圧着端子に絶縁キャップを取り付けます。

■適合圧着工具  
ニチフ製 NH1、NH9、NA3（N3 7）または同等品

# 5 速結式アース中継端子への電線接続

- [1] 速結端子への接続

電線をストリップゲージに合わせて被覆を15mm剥離し、速結端子の奥まで確実に差し込みます。

[2] 電線の抜き方

解除ボタン（白色）をドライバなどで押しながら、電線を抜きます。

[3] ねじ端子金具への接続

電線の被覆を15mm剥離し、ねじ端子金具のねじを完全に緩めてから、ねじ端子金具に電線を奥まで差し込み、ねじを締め付けます。

ねじ締付トルク 1.6～2.0 N・m

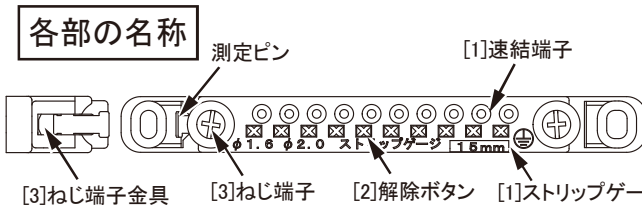
⚠️ 注意

⚠️ 禁止

- 1つの速結端子に2本以上の電線を差し込まないでください。
- 心線をはんだ付けしないでください。
- ねじ端子金具のねじを緩めない状態で電線を差し込まないでください。

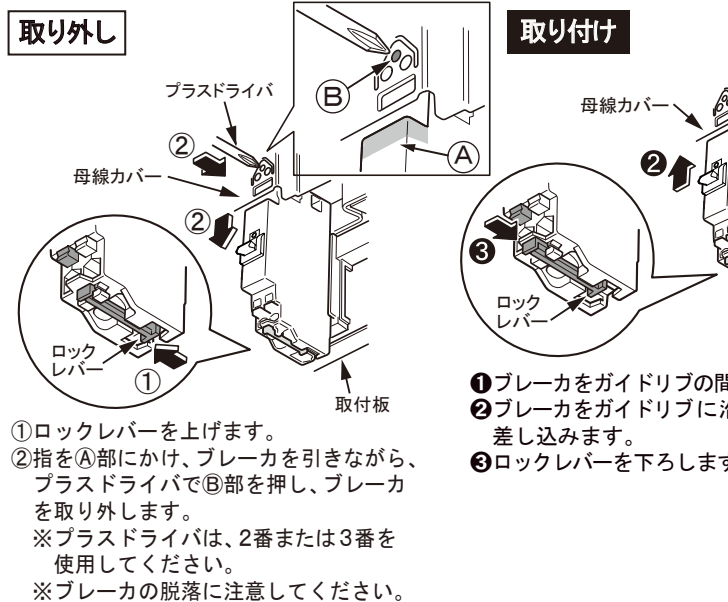
⚠️ 厳守

- 電線の差し込み部の変形・腐食は、接続不良により、発熱・発火の原因となります。電線の変形・腐食部分を取り除いた後、電線の被覆を剥離し、接続し直してください。
- ねじ端子は、定期的に増し締めを行ってください。接触不良の原因となります。
- 解除ボタンに電線を接触させないように配線してください。接触不良の原因となります。



# 6 その他

## [1] 分岐ブレーカの取り外し・取り付け



⚠️ 注意

⚠️ 厳守

- 必ず上位ブレーカを切ってください。感電・短絡のおそれがあります。
- 母線カバーは取り外さないでください。感電のおそれがあります。
- 交換の際に取り外したブレーカを再利用する場合は、仕様をよく確認し正しく使用してください。
- 分岐ブレーカは確実に取り付け、ロックレバーを下ろしてください。取り付けが不十分な場合、火災のおそれがあります。
- 分岐ブレーカのパールテクトブレーカは、弊社製住宅用分電盤パールテクト専用品です。弊社製の他の分電盤、他社製分電盤には取り付けできません。無理に取り付けた場合、火災のおそれがあります。

## [2] 分岐ブレーカの電圧切り替え [2P2E型（100/200V）のみ]

- 200V 回路への切り替え方法

(1) 分岐ブレーカ（2P2E）を取り外します。（上記、取り外し方法を参照してください）

(2) 電圧切替端子部①を矢印方向にスライドします。必ず端（カチッと音がする）までスライドさせてください。

(3) 電圧確認表示②が200V（赤色）になっていることを確認します。電圧確認表示②が100Vのままの場合は異常です。本ブレーカを使用しないでください。

(4) パネル裏面に貼付している200Vシール③を貼付します。

(5) 分岐ブレーカ（2P2E）を取り付けます。（上記、取り付け方法を参照してください）

(6) 電線接続前にブレーカの負荷側で電圧を確認してください。

